

立場を変えて考える

3年 劉 清嵐

現在日本の社会において、労働力の減少は様々な問題の要因となっている。その中で、保育園や介護施設、病院などの人手不足は特に深刻な状態であり、「保育士や介護士、看護師の仕事は大変」というようなイメージが私たちの間に広がっている。しかし、保育や介護・看護などの仕事が大変になったのは労働力の減少だけが原因ではない。子どもや高齢者、患者を預かってもらう側の考え方、要求にもある。

保育園が保育士に対して妊娠の順番を指示することは、保護者からの「保育士の産休育休によって、自分の子の担任が途中で代わってしまうのは困る」という要求を満たすためにせざるを得ない解決方法である。保育士に対して、この「妊娠順番制」を保護者やその親族が一方的に要求することは非常に不合理なことである。保護者は、育児には上手いかわからないこともあり、子どもを管理することは大変なことであることを知った上で、自分の子どもを他人である保育士に世話をしてもらっているはずである。しかし、保護者からの要求を満たすために、保育士たちは自分の子を産むことができなくなってしまった。預かってもらう側の不合理な要求は、保育士の「自分の子どもを産み、育てる」という権利を奪ってしまったのである。不合理な要求をする、子どもを預ける側の保護者は、保育士の仕事を理解しておらず、保育士の立場で物事を考えてはいない。結婚や出産はすべての女性の権利である。しかし、子を預ける側の要求を満たすために、元々重労働であることに加え、このような権利を脅かされる生活を送らなければならないのである。これは不公平であり、保護者は利己的である。保育士に要求を述べる前に、相手の立場で慎重に考える必要があるのではないか。このような現状は保育園だけではなく、介護施設で働く介護士、病院で働く看護師にも当てはまる。

不合理な要求は保育園や介護施設での人手不足の問題にも関わってくる。保育園が指示せざるを得ない「妊娠順番制」は保育士の生活に大きな制限を与える。このことを知った人は保育士という職を遠慮するようになる。保育や介護、看護の仕事は大変という認識は多くの人に定着しているだろう。私たちのような若い世代の中にも、「将来、看護師にはなりたくない」と考える人もきっといるだろう。その結果、保育や介護、看護の分野の職に就く人は減少し続けることになる。現在直面している問題はさらに深刻になっていくだろう。

「妊娠順番制」のような問題に対して、海外の労働者を受け入れ、労働力を補う対策は十分ではないと考える。私たちは一人ひとりがこれまでの考え方、要求を反省することが必要である。その一歩として、私たちは保育や介護、看護といった職の仕事内容を十分に理解し、それらの仕事が想像以上に複雑で難しいものであるということをしつかりと認識しなければならない。保護者や患者、その親族など、預かってもらう側はこれらの職に従事する方々に対し、十分な感謝と相手を尊重する気持ちを持つべきである。様々な要求をする前に、その要求が相手にとって負担にならないか、不合理でないかを十分に検討する。そして、思わぬ事故や不都合なことが起きた場合には、自分の立場のみで物事を判断し、

相手を責め、要求するのではなく、相手の立場に立って状況を見つめ、冷静に判断してから意見を述べるべきである。また、第三者となった場合には、批判的な思考だけではなく、保育園や介護施設、病院の側から事故を分析し、評価することも必要である。

預ける側の考え方を変えることができれば、保育士や介護士、看護師に対し、よりよい労働環境を提供することができる。「妊娠順番制」が普通に存在する現状に対して、私たちは多くを要求する前に、まず自分の考え方を変える必要がある。